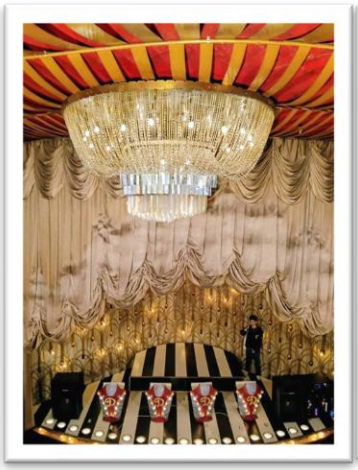
学科名	近代建築の遺産を訪ねて
テーマ	イケフェス大阪 2026 見学（班別行動）
受講日	2026 年 10 月 24 日（金）

【午前】 グランドサロン十三 ― 昭和の夢がきらめく「関西一の大型キャバレー」

あいにくの雨の中、一日目のイケフェス大阪が開幕。午前は阪急十三駅からほど近い「グランドサロン十三」を見学しました。1969 年（昭和 44 年）創業の老舗キャバレーで、当時は 2 階まで約 170 席を備えた大箱。日本経済が年平均 10%超で成長した高度成長期、猛烈に働いた人々の息抜きの場として連日にぎわったそうです。

扉を抜けると、赤と金で彩られた非日常の世界。中央には幾重にも連なる大シャンデリアが輝き、ステージ背後の壁面はアール・デコ調の電飾がアーチを描きます。らせん階段の金細工の手すりにも昭和の贅が残ります。全国でも十数軒を残すのみという貴重な大型キャバレー。老朽化で 2 階は現在休止中ですが、「文化発信を通じて地元・十三に貢献したい」との思いで灯をともし続けているそうです。

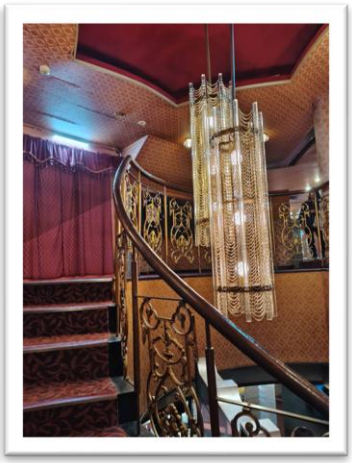




大シャンデリアと
ステージ



電飾壁と
回転ダンスフロア



螺旋階段







【昼】 扇町公園でひと休み

【午後】 天満教会 ― 「鎮ブロック工法」が生んだ、軽やかな祈りの空間

午後は南森町の天満教会へ。創建は 1929 年（昭和 4 年）、空襲や大震災をくぐり抜け、3 年後には 100 年を迎える歴史ある教会堂です。2012 年の大規模な保存・改修を経て 2015 年に登録有形文化財となり、同年からイケフェス大阪に参加しています。

建築家・中村鎮（まもる）が考案した「鎮ブロック（コンクリートブロック）工法」を採用。L 字型ブロックを組み合わせて積み上げることで軽量化・耐震性・低コストを実現したそうです。礼拝堂の天井には白いアーチ状の梁がのびやかに架かり、素朴なスチール枠のステンドグラスから淡い光が差し込みます。正方形の床板やペンダント式の古風な照明は竣工時のまま。説教が聞き取りやすいよう響きを抑えつつ、適度な残響でコンサートホールとしても使われています。

見学中にはパイプオルガンの生演奏も。やわらかな音色が白いアーチ天井に響き渡る様子は圧巻でした。



日本基督教団 天満教会
（南森町）の外観



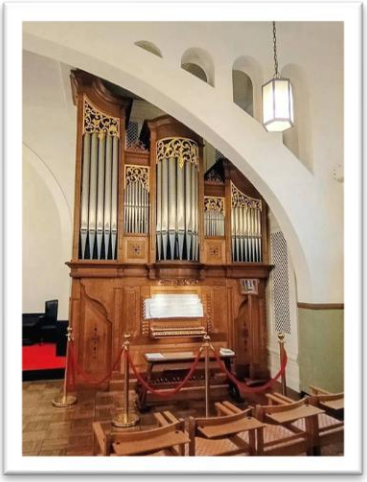
十字架と白い
アーチ天井の礼拝堂



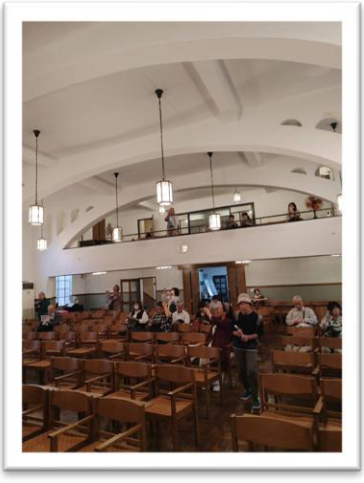
アーチ窓の
ステンドグラスと高い天井



響きわたるパイプ
オルガンの生演奏



木の温もりある
パイプオルガン



2 階ギャラリーまで
望む礼拝堂全景

キャバレーの絢爛と、教会の清らかな静けさ。今日は、対照的な二つの「生きた建築」をめぐる、心に残る一日となりました。

（担当：4 班広報）